

園長のつぶやき⑨

「先生は、えこひいきをします」

あけましておめでとうございます。

前号に続いて、小学校教員時代の思い出を振り返ります。小学校2校目で6年生担任していた、30代前半のころのお話です。



自分が受けもっていたのは、25人の多感な6年生でした。あるとき、いろんなことをがんばっている女の子をクラスのみんなの前で褒めたら、「あの子にだけそうするのはずるい!」「ひいきだ!」と数人の子どもたちに指摘されました。「そうか、そんなに思っているんだね。」とまずは、受け止め、

「先生は、えこひいきをします。」と子どもたちの前で宣言したのです。子どもたちはびっくりです。

まず、子どもたちと自己紹介ゲームをしました。クラスの子どもに好きな果物を書いてもらい、「リンゴが好きな子ってだれかな?」と当てっこをします。そして、果物一つとっても1人1人好みが違うことを確認します。その上で、こう語りかけました。

「リンゴが好きな子、ミカンが好きな子、いろいろいるね。もし先生が全員にリンゴをあげたら、リンゴが好きな子はうれしいけど、リンゴが嫌いでミカンが好きな子はうれしくないよね。だから、先生はみんなにそれぞれ違ったことをして、その子が一番うれしいことをします。それは、先生がみんなを大切に思っている印なんです。だから、先生が他の子どもにあなたと違うことをしていても、どうして私にはしてくれないのと思わなくていいですよ。」



大切なことは、どの子にもその子に合った特別扱いをしていることを子どもたちに実感してもらうことでした。

「平等な対応」はかえって不公平であり、それぞれの子どもに違った対応をすることこそが「公平な対応」であるということを、しっかり教える側が意識することが大切だと思います。

この、「公平と平等」の違いについては、次号で詳しく紹介したいと思います。

今年もよろしくお願いします。